

2018年度 スクールソーシャルワーク研修

本生涯発達研究所は公開研修講座として、スクールソーシャルワーク研修を、2018年8月27日（月）～8月30日（木）に、本学長久手キャンパス G（教育福祉学部）棟地下1階 G002 教室で開催した。愛知県立大学地域連携センターが共催となり、広報、受付等のご協力をいただいた。プログラムの内容は以下のようである。

日	時間	講義演習題目
8月27日(月)	9:00～10:20	① スクールソーシャルワークの沿革、意義 (オリエンテーション)
	10:30～12:00	② スクールソーシャルワークの基本的な視点、価値と倫理
	13:00～14:20	③ スクールソーシャルワークの機能と役割・制度上の位置づけ
	14:30～16:00	④ スクールソーシャルワークの援助過程
	16:10～17:30	⑤ スクールソーシャルワークの実践スタンダード1
8月28日(火)	9:00～10:20	⑥ スクールソーシャルワークの実践スタンダード2
	10:30～12:00	⑦ 児童虐待ケースへの介入【要保護児童対策地域協議会】
	13:00～14:20	⑧ 不登校ケースへの介入【ネグレクト】【外国人】
	14:30～16:00	⑨ 発達障害ケースへの介入【特別支援教育コーディネーター】
	16:10～17:30	⑩ 非行ケースへの介入【トラウマ】
8月29日(水)	9:00～10:20	⑪ いじめケースへの介入【危機対応】
	10:30～12:00	⑫ 貧困問題の理解
	13:00～14:20	⑬ 「問題解決型ケース会議」のモデル 説明
	14:30～16:00	⑭ ケース会議の実践方法1 模擬会議（見学）
	16:10～17:30	⑮ ケース会議の実践方法2 模擬会議（グループワーク参加）
8月30日(木)	9:00～ 12:00	⑯ ケース会議の実践方法3 模擬会議（グループワーク参加） まとめ

〈実施状況〉

予定した定員40名は申込締め切り日を待たずにすぐに満席となった。当日は欠席者があったことから、参加人数は、一般35名、人間発達学研究院生2名であった。一般参加者の多くは、学校教員とスクールソーシャルワーカーであった。

昨年度までは、本学教育福祉学部・大学院人間発達学研究科共同の科研費によるプログラム開発研究の一環として年4回の研修会を実施していたが、今年度は資金と労力の問題から、3日目までは、本学大学院人間発達学研究科博士前期課程の集中講義「スクールソーシャルワーク論特講」（東京学芸大学准教授 馬場幸子）の集中講義を一部公開する形で、理論を中心とした講義を受講していただいた。

4日目は、貧困問題が背景にある不登校傾向の生徒の事例を想定して、4グループに分かれて模擬ケース会議を行った。本学部・研究科教授の山本理絵の進行のもと、生涯発達研究所研究協力員であるスクールソーシャルワーカーが各グループに入ってアドバイスしながら、問題、子どもの強み、支援目標、問題の背景、支援方法などを話し合った。

受講者は熱心に参加し、来年度の開催への要望も出されるなど、大変好評であった。今回は教職員に限定せずに受講者を募集したことから、教員とスクールソーシャルワーカー等、違う立場の専門家がー

緒に受講し、お互いに理解を深めることができた。

本研修は非常に要望と期待の大きい研修であり、来年度からの研修の実施方法は検討課題である。

(文責：山本理絵)



〈研修当日の様子〉